

第1編

長期ビジョン

01 はじめに

02 ビジョン

03 まちづくりの目標



01 はじめに

これまで福知山市では、概ね10年を計画期間とする「総合計画」を策定し、それを市政運営の基本として現在の福知山市の基盤をつくり、諸施策を実施し、発展してきました。

しかし、日本社会や福知山市を取り巻く自然・社会環境はかつてない大きな変化と複雑さを見せています。

地球規模での温暖化による気候変動とその影響とも考えられる大規模災害の頻発、全国的な人口の減少とそれに伴う急激な少子高齢化や過疎化、ICT*技術・産業の飛躍的な発展を基礎にもたらされる国際化・情報化の進展など、自然・社会環境の大きな変動は、今後の日本と地域社会のあり方を長期にわたって根底的に規定していくものと思われま。

今後は、この大きな変化の方向を見定めながら的確に対応した市政運営を行っていくことが必要となっています。

このため、地域社会の将来をこれまでの延長線上に構想して、10年先をめざしたまちづくりを考える発想を転換することとしました。

具体的には、地域社会の大きな変化の方向を見定めたくえで、めざす福知山市の未来の姿を描く「長期ビジョン」と、その「長期ビジョン」に掲げる都市像を実現するための5年間の基本戦略を体系化した「基本計画」とで構成する「未来創造 福知山」を新しい福知山市の指針とします。

「長期ビジョン」は、めざすべき未来の福知山市の姿です。ここでは、過去の傾向等から計量的に将来予測するのではなく、「市民憲章」※が掲げる美しい自然などの地域資源を未来につなぐとともに、市民自らがみんなまで幸せを感じるまちづくりに関わろうという普遍的な価値観を意識しながら、こうありたいと願う福知山市の姿を描いています。

そして、今後、刻々と変化する福知山市を取り巻く社会情勢を見定めて常に点検を行うことにより、市民の皆様とともに「幸せを生きる」まちづくりに取り組んでいきます。

※「市民憲章」について

市民憲章は、市民が主役のまちづくりを促進する「福知山市ふるさと創生計画」に基づき制定された、市民の「心のよりどころ」「行動指針」「生活規範」を明文化して、住んでみたい、住んで良かったといえる、すてきな福知山をみんなでつくりあげようという基本的な理念を表した「福知山市民の恒久の願い」として平成3年4月1日に制定されました。

02 ビジョン

わが国全体が、成長時代を経て成熟時代を迎える中、福知山市においても人口減少が進行し、市民ニーズの多様化・高度化が進み、今まで以上に安全性や快適性など、生活環境の質的向上や、新たな価値の創造が求められるなど、まちづくりの大きな転換期を迎えています。

このような中、私たちが福知山を誇りに思い、市民一人ひとりがお互いの人権を尊重しながら対話や交流を深めることで、絆や支え合う心を育み、さらに広げていくことが期待されています。

私たちは、互いに協力し高め合うことで能力や個性を最大限発揮するとともに、市民自らが考え行動することで、社会情勢が急速に変化する中でも温かみや幸せを感じられ、生きがいを実感できる強くしなやかなまちを持続し、発展させていくことができます。

福知山市は、北近畿地方(京都府北部、兵庫県北部)の中央に位置し、交通の要衝として恵まれた立地条件を活かし、この地域における運輸通信・産業経済の交流拠点として、また、周辺地域から多くの人々が集う日常生活圏の中心として一定の都市機能を集積し発展しています。

加えて豊かな自然、歴史・文化、充実した教育・医療機関など誇るべき豊富な資源を持っています。

今後、自然環境や社会環境、世界の産業構造が激しく変化することが想定されます。たゆまぬ努力により福知山市に集積された都市機能などの資源を持続し充実するとともに、本市が持つその強みと役割を十分に発揮することで、人と人、人とまち、そしてまちとまちをつなぎ合わせ、ここに暮らす人々がそれぞれの想いや願いを自ら実現できる、**多様性あふれる高次機能都市**をめざします。



03 まちづくりの目標

私たちがめざす未来の福知山市の姿を、以下に示します。

人間性が豊かで誰もが生きがいを感じるまち

個人の生命と人権、多様な価値観や生活スタイルが尊重され、家庭や地域での豊かな人間関係を基本とした活発な連携・協働による多彩なコミュニティ*活動にあふれたまちを実現するとともに、個性が尊重され、能力を発揮することができる環境が構築され、相互に支え合い、助け合うことで「生きがい」を実感できるまちを実現します。

豊かな環境や文化を活かしすべての地域が輝くまち

それぞれの地域では、人々が郷土への愛着と誇りのもとに地域の暮らしを支えています。愛着と誇りは、歴史や文化に培われた地域資源、豊かな自然、環境から生まれるものであり、将来にわたってしっかりと守り育てることが重要です。誇りを持ってふるさとを語るができる環境を創り、すべての地域が輝くまちを実現します。

多様性にあふれ新たな価値を創造するまち

豊かな自然、医療、福祉、学びなど幅広い基盤が充実した福知山市では、多様な生活スタイルの選択が可能です。北近畿の交流拠点である福知山市では、市内はもとより広域的な人や物の交流をさらに深めることで、新たな価値を創造するまちを実現します。そして、全国さらには世界に向けてその情報を発信します。

安心・安全に暮らせるまち

地球規模で風水害や地震といった災害などのリスクが高まっています。これらに対して市民の生命財産を守る安心・安全なまちを、自助・共助*を活かして市民とともに作ります。

また、すべての人がそれぞれの地域で安心して暮らせるように健康・医療・福祉の充実とともに、若い世代の働く環境の確保、結婚・子育ての希望がかなう社会を実現します。

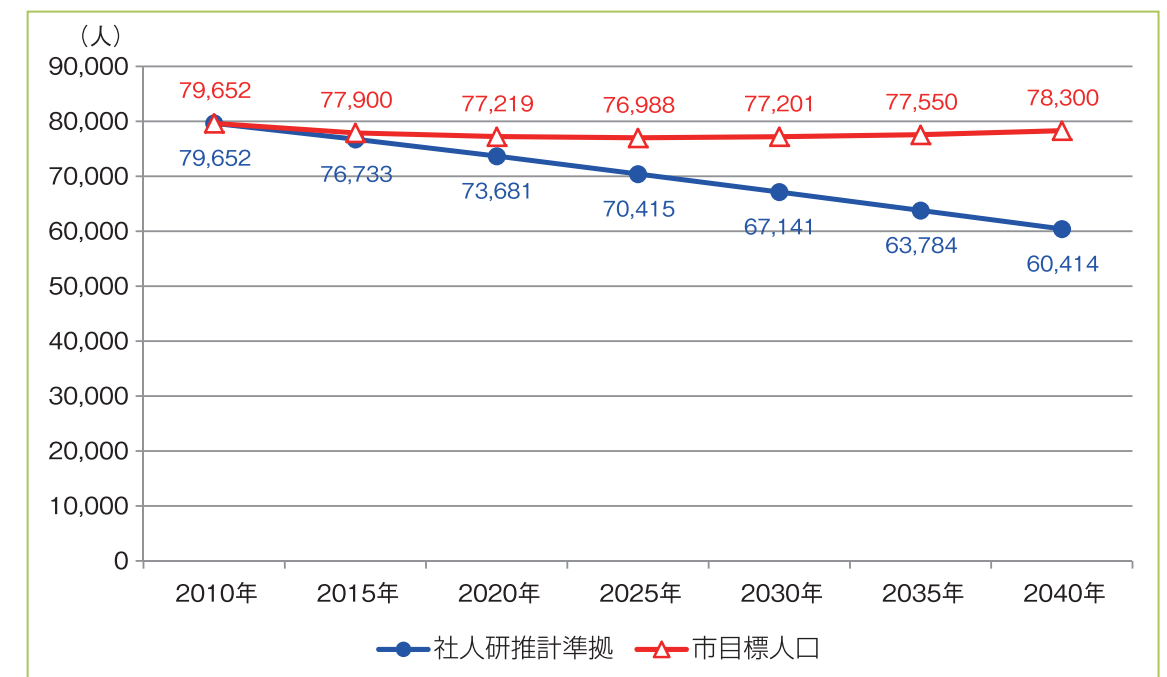
(1)人口の目標

福知山市の人口は、平成に入ってから約82,000人を前後に横ばい状況が続けていましたが、平成17年と平成22年の国勢調査の結果によると、5年間で2,325人(2.8%)減と人口減少が加速しており、国立社会保障・人口問題研究所によると平成52年(2040年)には、60,414人にまで減少することが想定されています。

こうした中、福知山市においても、人口減少の克服に向けた指針となる「福知山市人口ビジョン」を平成27年10月に策定しました。

「基本計画」などに掲げる人口の維持・確保のための各種施策を展開することを前提に、「長期ビジョン」の取り組みを総括的に評価する基本指標として、平成52年(2040年)に人口78,300人を目標に掲げ、その実現をめざします。

人口推計(福知山市人口ビジョン)



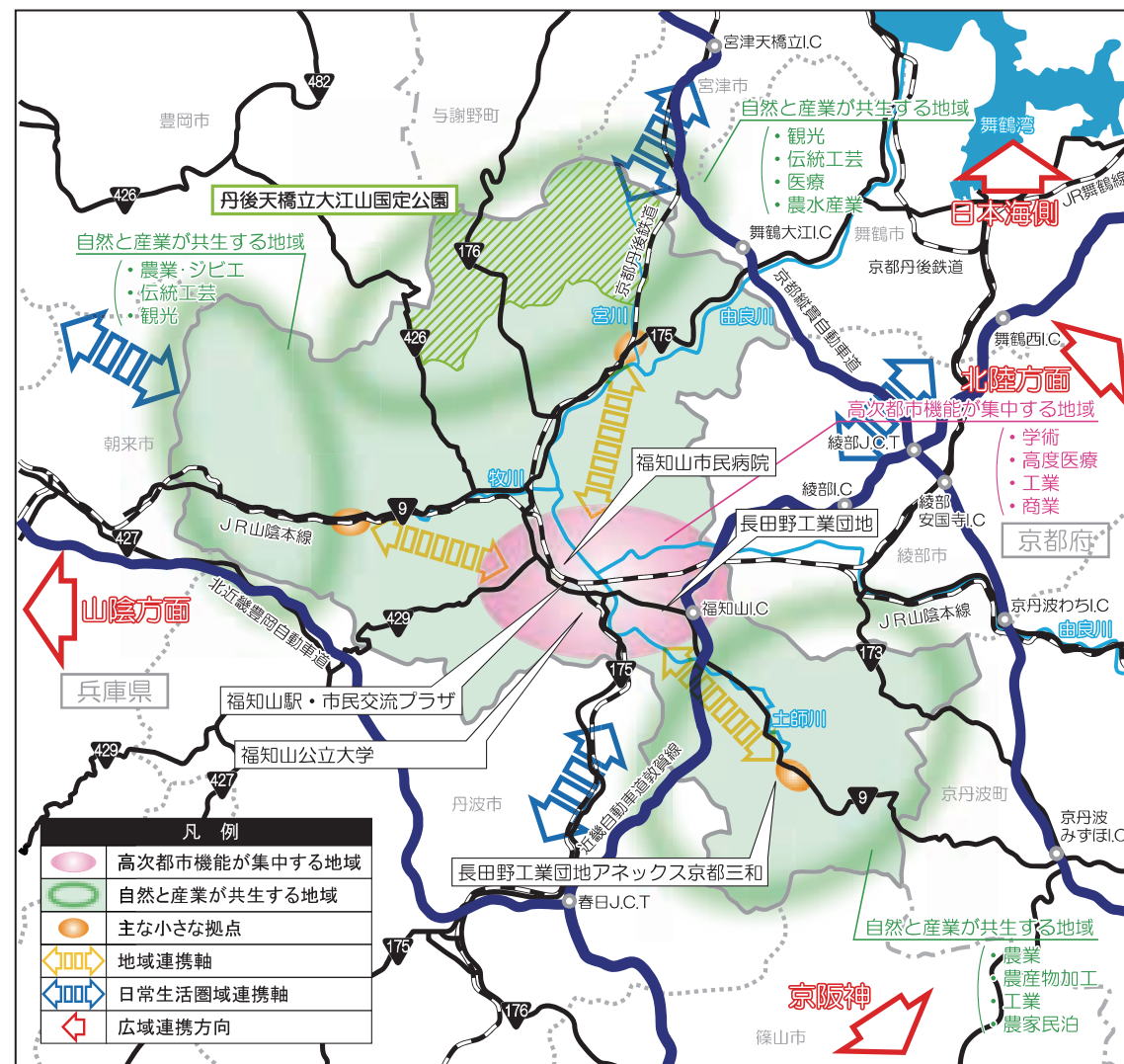
出典：福知山市人口ビジョン 国勢調査(平成7年～平成22年) 国立社会保障・人口問題研究所(平成27年～平成52年)

(2)都市づくりの目標

福知山市は、各地域の特性を活かし、多様性あふれるまちづくりを進めていくため、福知山市の「目標とする都市構造」を地域性やその役割を踏まえた「福知山らしいコンパクトな都市」(コンパクト+ネットワーク)づくりを推進します。

「福知山らしいコンパクトな都市」とは、高次の都市機能がコンパクトに集積する中心市街地の一層の機能強化とあわせて、市街化調整区域*を含めた農山村地域においては中核となる集落を「小さな拠点」と位置付け、これらの核を中心として地域内外の連携強化を図り(ネットワーク形成)、日常的な生活利便性を確保するものです。

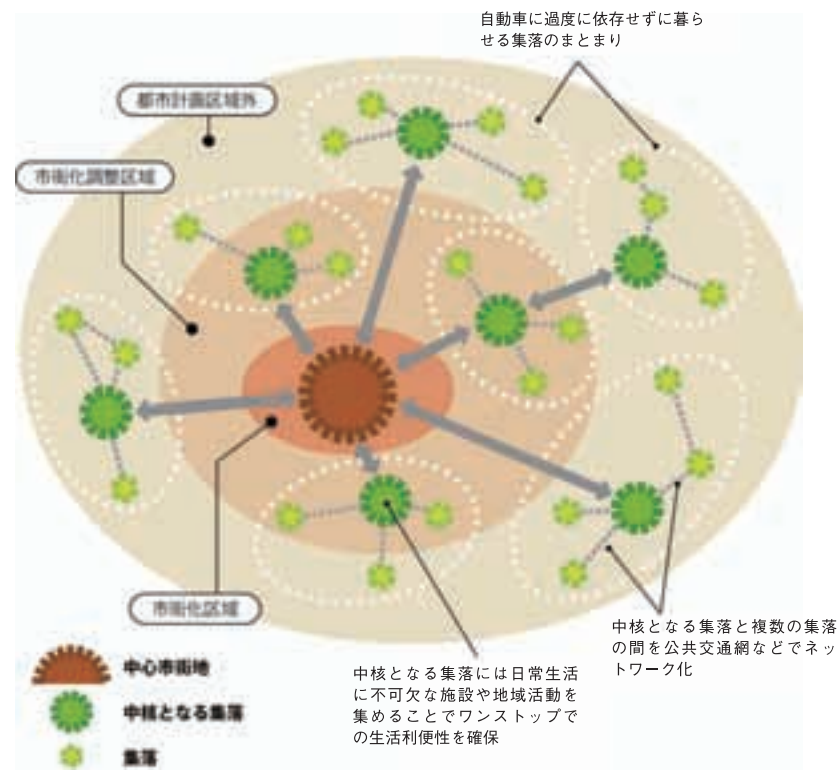
■目標とする都市構造図(多様性あふれる高次機能都市)



■各都市構造要素のまちづくりの方向性

都市構造要素	まちづくりの方向性
高次都市機能が集中する地域	市街化区域*を中心に、行政、教育、医療、文化などの拠点施設が整備され、交通、商業、情報化など都市的機能が充実しています。 中心市街地の活性化を促進しつつ、地域内外交流の核となる地域としてその役割を強化し、福知山市の中核的役割と地域のくらしの安心感を支えます。
自然と産業が共生する地域	良好な自然に恵まれた地域で、小さな拠点となる中核的な集落を核としたまとまりのあるエリアによって農山村生活圏を形成する地域です。 豊かな自然環境との共生を図りつつ、農山村生活圏における日常生活を支える拠点の形成と強化を図ることで、地域のくらしの安心感を生み出します。
小さな拠点	集落が散在する地域において、地域住民の日常的なくらしに必要な買物や医療等のサービス機能を集め、周辺の集落とのネットワークを確保した小さな拠点の形成を進めます。 小さな拠点づくりは、地域住民の日常生活を支え、祭りや伝統文化の維持をはじめとするコミュニティ*活動や交流も支援することで、田園や山里に点在する既存集落に住み続けることをめざす取り組みです。
地域連携軸	「高次都市機能が集中する地域」に集積した都市機能によるサービスなどを利用するため、移動手段を確保することにより、市域全体における生活基盤の維持・向上を図ります。
日常生活圏域連携軸	市内連携に加え、日常的に人の流入・流出が活発である周辺自治体との間で、生活圏としての連携をより強化する都市づくりを進めます。
広域連携方向	周辺圏域を超えたより広域連携を見据えた都市づくりを進めます。

■小さな拠点のイメージ



多様性あふれる高次機能都市とは

福知山市は、これまで医・職・住・遊・学といった都市基盤の整備に取り組んでおり、とりわけ京都府北部唯一の地域救命救急センターである福知山市民病院、府北部最大の規模を誇る長田野工業団地、府北部唯一の4年制大学や多数の高等学校などの集積、さらには大都市圏や日本海側を結ぶJR山陰本線・福知山線や京都丹後鉄道宮福線、高速道路などの交通結節点といった多様で高度な機能が集積しています。福知山市は、こうした都市的エリアと豊かな自然に囲まれた農山村エリアを併せもつ、多様な地域で構成されています。

都市的エリアでは、これらの都市機能の集積により、利便性の高いアクティブな都市的生活を送ることができます。

農山村エリアでは、豊かな自然環境の中で、大江山などの観光資源、長田野工業団地アネックス京都三和などの製造業の拠点、和紙や漆などの伝統工芸産業、農業など多様な資源や産業機能も備え、自然豊かな生活を送ることができます。

また、福知山市域内の両エリアが鉄道や幹線道路でしっかり結びついており、それぞれのエリアの良さをお互いに享受できる多様性を持っています。

さらには、京阪神地域や日本海と近接した立地条件のもと、鉄道や高速道路が整備されたことにより、1時間程度で大都市のサービスや、海の恵みなども身近に選択できる地域であり、市内外を問わず多様な生活を享受できる高度な機能が集積した都市であります。

都市と農山村の両方の基盤を活かした人口の定着と流入が図られるよう、一層、機能の充実・整備を図ることとします。